

# 特別支援学級生活単元指導案

日時 令和6年9月18日(水)  
第5校時 13:30~14:15  
学校名 池上小学校  
会場 五組1の部屋(1階)  
対象 第4学年~第6学年(12名)  
授業者 T1 本永美幸  
T2 浅羽 謙

## 1.大単元名「池上五組会社でお仕事しよう」 小単元名「売上金で何しよう？」

### 2.大単元の目標

会社を運営していく中で、商品作りをしたり商品を販売したりする活動を通して、働く喜びを知り、金銭の流れを実感することができる。

### 3.小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ワークシートを手掛かりに自分の考えを話したり、相手の話に関心をもったりしている。	・売上金の使い道を自分なりに考えている。	・説得力のある資料作りに必要なものを考えたり、協力して準備をしたりしようとしている。

### 4.小単元について

#### (1) 指導内容

この単元では、1学期に行った野菜栽培やスウェーデン刺繍、アイロンビーズ等の制作・販売会での売上金の使い道について話し合い活動や資料をまとめる活動を行う。プレゼンテーションを聞き、各々が投票して売上金の使い道を決める。昨年度は売上金でユニセフ募金を行い、お菓子を買って遠足に行った。そのことを思い出しながら、販売会で売ることを楽しみに商品作りに励み、販売会ではお客さんとして来た保護者の方にくさん買ってもらえた。どの児童も、「今年お金は何に使うの？」と売上金の使い道に興味を示しており、関心の高さがうかがえた。自分たちが販売して得たお金の使い道を自分たちで考え、他の友達と話し合っで決めることで、児童の活動に対する目的意識が高まり、意欲的に学習に向かう姿が期待できる単元である。

#### (2) 指導の工夫

##### ○生活に結びついた具体的な活動

販売会の売上金で買い物をしたり出掛けたりする活動を本単元のゴールに設定することで、普段の生活で保護者と一緒に経験していることを、今回は自分たちで計画して行う。そして「ワクワク」した気持ちで意欲的に取り組めるようにする。

##### ○興味・関心を引く視覚的教材・教具の工夫

販売会の振り返りを行う際、動画で当日の様子を振り返り、視覚的に当日の記憶を呼び起こす。出掛ける場合は切符の買い方を写真や動画を見ながら学べるようにし、児童の意欲につなげる。また、児童が具体的にイメージしやすいように工夫し、関心をもって取り組むことができるようにする。

##### ○協働的に話し合うための段階的な指導と話し合いの視点の明確化

売上金の使い道について、自分の考えを話したり、相手の話に関心をもって聞いたりする際、どの視点で話したり聞いたりしたら良いのかを「売上金の使い道の条件」として明確にする。そうして、児童が必要な事柄を選んで話し、話し手が知らせたいことや聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができるようにする。また、使い道の候補が条件に合っているか照らし合わせながら話し合いを行う。そのために、ワークシートを工夫し、出た意見を付箋に書き出す。話し合いの中で付箋を操作しながら一人一人の意見が反映された結論を出すことができるようにする。自分の意見に固執する児童がいるため、あえて自分の意見ではなく、友達が出した意見を取り上げ、客観的に話し合いを行うことができるようにする。そして、条件を点数化することでみんなが納得した上で結論を出すことができるようにする。また、できるだけ話し合いをスムーズに進められるメンバーでグループを組む。

### (3)創造的な資質・能力を重点的に育成する単元として設定した理由

たくさんアイデアの中からみんなが納得する結論を出すために、ワークシートを思考ツールとして用いて考えを整理したり意見を一つに決めたりしていく。これは、「Well-being」という視点で多様な考えの中から具体的な内容を検討する際の思考につながっていく。また、売上金の使い道を決めるために、画用紙や原稿用紙、タブレットや本を活用してグループでプレゼンテーション資料を作成する。この活動は、教科「おたの未来づくり」が目指している、必要な情報や情報収集の方法を考え相手に受け入れられるものを企画して相手に伝わるよう表現する力の育成につながる。また、ICT を活用して情報を収集し、集めた情報をスライドにまとめることで、スライド作成に関する知識・技能の土台を築くことができる。

## 5. 児童の実態

話し合いでは、教師が間に入り、考えを一つにまとめる活動を重ねており、友達に自分の考えを伝えることができるようになってきている。しかし、児童だけで話し合うと、自分の考えに固執し友達の考えを受け入れられなかったり、「○○さんの考えでいいよ。」と話し合うことなく考えを譲ったりすることが多く、意見を交流させた上で考えを一つにまとめることが難しい場面が見られる。その理由としては、考えをまとめるための切り口や友達に考えを伝える語彙が少ないことが考えられる。その結果、積極的に話す児童の考えが採用されてしまい、全員の意見を反映させた考えにまとめることが難しい。また、聞くことについては、時間いっぱい意識し続けることが難しい児童が多い。そのため、話を聞いていなかったり、同じことを何度も質問したりする場面が見られる。そこで、日頃から言語活動の充実を図り、朝の会での司会やスピーチ、聞く姿勢などを意識しながら学級活動を進めている。

生活単元学習では、4月に「池上五組会社」を発足し、社長や栽培班、広報等、役割を決めて活動を始めた。学期末の販売会に向け、土づくりから行い野菜を育て、アイロンビーズ作りや刺繍作品を作ってきた。2年生以上は昨年度の販売会の経験があり、作品を作る際にも、売ってお金を得ることより、「お客さんに喜んでもらえる」という気持ちが強く、意欲的に行っていた。実際の販売会では、場の設定や会計については教師が整えたが、見やすい展示や台詞は児童で考え協力してお店を開くことができた。お勧めの商品、何年生が作ったかなど、自分たちの言葉で生き生きと接客することができていた。自分たちの作品がたくさん売れていき、皆で喜び合った経験がある。

野菜の栽培では、大田区の馬込野菜の一つ、「馬込きゅうり」に挑戦した。地域の JA から苗を購入し、土づくりや水やりを頑張ったが、栽培が難しく、半白のきゅうりが一つできるにとどまった。

## 6. 小単元の指導計画と評価計画(全8時間)

次時	○ねらい・主な活動 ※全:全員、高:高学年のみ	◇指導上の留意点	■評価(評価方法・評価材料)
1 1 2	○販売会の振り返りを行い、今後の活動につなげることができる。(全) ・当日の写真や動画を見て、記憶を呼び起こす。 ・自分が希望する売上金の使い道をアンケートに記入する。 ○売上金使い道の条件を考えることができる。(高) ・自分なりの考えを発表する。	◇自由な発想で使い道を考えられるように、アンケートを行う。 ◇「池上五組会社」の社員全員が納得できるような条件を考えられるようにする。	■売上金の使い道について、自分の考えをもつことができている。(ワークシート)  ■売上金の使い道の条件を自分なりに考えている。(観察・発言)
2 3 本時	○売上金の使い道について、ワークシートを手掛かりに、自分の考えを話したり、相手の話に関心をもって聞いたりすることができる。(高) ・売上金使い道の候補と、条件を照らし合わせながら話し合い、グループごとに、結論を出す。	◇活動がスムーズに行われるようなグループ編制をする。	■ワークシートを手掛かりに、自分の考えを話したり、相手の話に関心をもって聞いたりしている。(観察・発言)
3 4 5 6	○プレゼン資料を作成することができる。(高) ・グループごとに出した結論に説得力をもたせるための、資料作りをする。	◇画用紙や原稿用紙、タブレットや本を用意し、既習事項を生かした資料作りができるようにする。	■説得力のある資料作りに必要なものを考えたり、協力して準備したりしている。(観察・発言)
7	○プレゼンテーションを聞き、売上金の使い道を決めることができる。(全) ・プレゼンテーションを聞き、自分の意見を伝える。	◇もっと知りたいことを質問する時間を設け、意思決定の助けにする。	■プレゼンテーションを聞き、売上金の使い道を考えている。(ワークシート)
4 8	○会議で決めた使い道に沿って、売上金を使うことができる。(全) ・会議での決定に沿って、売上金を使う。	◇買い物の場合は、買ってきたものを堪能する時間を設けることを話し、「ワクワク」する気持ちをもたせる。 ◇出掛ける場合は、事前指導や準備を行い、見通しをもって活動できるようにする。	■楽しんで(買い物へ)出掛けている。(観察・発言)

## 7.本時の流れ(3/8)

(1) 目標 ワークシートを手掛かりに、自分の考えを話したり、相手の話に関心をもって聞いたりすることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	◇支援と留意点 ■評価
導入 5	1. 前時の振り返りと本時のめあてを知る。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">売上金使い道の候補を決めよう。</div>	◇本時の見通しがもてるように今まで学習してきたことを視覚的に振り返る。
展開 35	2. 売上金使い道の候補と候補を絞るための条件を確認する。 →前時に決めた「条件」を提示する。  3. グループに分かれ、候補と条件を照らし合わせる。 ・全員で話し合い、ワークシートの付箋を動かす。  4. 候補と条件を照らし合わせた結果を、グループごとに発表する。 ・記入済みのワークシートを示しながら、理由と共に発表する。	◇前時に決めた条件を、その理由と共に確認する。  ◇活動がスムーズに行われるようなグループ編制をする。 ◇視覚的に分かりやすいワークシートを用い、話し合いが活発に行われるようにする。 ◇条件を点数化し、どの候補が一番ふさわしいか、分かりやすくする。 ■【思】ワークシートを手掛かりに、自分の考えを話したり、相手の話に関心をもって、聞いたりしている。【観察・発言】  ◇記入済みのワークシートを電子黒板で提示し、全員で共有できるようにする。 ◇言葉が足りない時は、教師が言葉を補い、全員が発表内容を理解できるようにする。
まとめ 5	5. 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・今日のめあてについて振り返る。	◇記入済みのワークシートを示し、決定した「売上金の使い道候補」を確認する。  ◇次時から、プレゼンテーション資料作りを始めることを話し、期待をもたせる。

(3) 授業参観の視点

・ワークシートは、話し合いが活発に行われる手助けになったか。

## 8. 資料

ワークシート(昨年度のもの)

<p>※<b>差</b>をつけなくても だいじょうぶ。</p> <p>4</p>	<p>3月21日までに できる。</p> <p>5</p>	<p>26000<b>えん</b>あれば だりる。</p> <p>5</p>	<p>いやがるひと・できないひとは いない。 ぜんいんで できる。</p> <p>4</p>
<p>おとなといっしょなら だいじょうぶ。</p> <p>3</p>			<p>いやがるひと・できないひとが2・3に<b>い</b>るかも。</p> <p>3</p>
<p>おとなといっしょに <b>差</b>をつければ だいじょうぶ。</p> <p>2</p>			<p>いやがるひと・できないひとが 10に<b>い</b>くら<b>い</b>るかも。</p> <p>2</p>
<p>おとなといっしょでも できない。</p> <p>1</p>	<p>3月21日までには できない。</p> <p>0</p>	<p>26000<b>えん</b>では だりない。</p> <p>0</p>	<p>ぜんいんが いや・できない。 ひとりでしか できない。</p> <p>1</p>
<p>あ<b>ば</b>なくない。</p>	<p>6年生もできる。</p>	<p>26000<b>円</b>以内でできる。</p>	<p>みんなが<b>楽</b>しめる。</p>